

**環境計画への市民参加と
ボランティアのエンパワーメント
ー 日進市の環境ボランティア調査 ー**

はじめに

- ・循環型社会の実現に向けたごみ処理計画の策定には市民参加が不可欠
- ・市民の多くは計画への市民参加に好意的
- ・計画策定への自身の参加には消極的
- ・共益としての計画策定と参加に伴う個人的負担
- ・ボランティア参加の社会的ジレンマ
- ・選択的誘因としてのエンパワーメント

研究の背景

- 日進市はごみ処理計画を市民参加で策定すると決定
- 環境団体は自主的なリサイクルシステムを導入済み
- 活動参加とネットワークがエンパワーメント獲得の源
- 有効感・有能感・連帯感がエンパワーメントの3要素

研究の目的

- ・ボランティアはごみ処理計画をどう評価し、どう参加するのか？
- ・ボランティアはなぜ計画作りに参加するのか？
- ・市民参加への態度と行動を規定する要因は何か？

仮説

社会的利益の予期は市民参加の評価を規定する

エンパワーメントの予期は参加意図を規定する

パーソナルネットワークはエンパワーメントを高め、
参加の個人的負担感を低めるだろう

従属変数

①ごみ処理計画への市民参加の全般的評価

“ごみ処理計画を作りには市民参加は不可欠だ。”

(2 items, $\alpha=.72$)

②基本計画への参加意図 (9 items, $\alpha=.93$)

“意見を反映するためのワークショップに参加したい。”

“ごみの組成分析に参加したい。”

独立変数 (1)

- ①市民参加による直接的な社会的利益 (5 items, $\alpha=.86$)
市民参加によりごみ処理の実施可能なルールが作れる
- ②市民参加による波及的な社会的利益(5 items, $\alpha=.85$)
市民参加により企業の環境配慮を促すことができる
- ③市民参加による社会的費用(2 items, $\alpha=.75$)
市民参加によってごみ処理計画を作るのが複雑になる

独立変数 (2)

④エンパワメントとしての個人的利益 (5 items, $\alpha=.88$)

参加すれば重要な情報をえることができる

参加すれば友達を得ることができる

参加すれば自分の考えを計画に反映できる

⑤ 個人的費用 (3 items, $\alpha=.72$)

参加すると自分の時間をとられそうだ

⑥ パーソナルネットワーク (1 items)

環境について話をする友人は何人いますか

調査デザイン

調査期間: 市民参加プロジェクトの前の2001年夏

調査対象: 日進市の156のボランティア団体の650人

調査方法: 郵送法によるスノウボール法

回収率: 73% (n=471)

結果の概要

- 市民参加への全般的評価はかなり肯定的
- 市民参加への行動意図は消極的否定的
- 参加の評価の規定因は直接的波及的な社会的利益
- 参加意図の規定因は個人的利益と個人的費用
- ネットワークは全ての利益費用の評価に影響

結果の解釈

- ボランティアは市民参加を社会的視点から受容する
- 個人的視点は市民参加の評価には関連が少ない
- ボランティアは個人的視点とくにエンパワーメントの予期の側面から参加するかどうかを決定する
- 参加の意思決定には参加の社会的視点はあまり 考慮されない

結論

- 環境計画に市民参加を導入する際には、その社会的利益の側面を強調した情報を提供すべきだろう
- 市民の参加を引き出すには、人々のエンパワメントの予期を高めるような働きかけが必要だろう
- 市民参加への理解と参加を促すためには、パーソナルネットワークを通じた働きかけが必要だろう